ましたが、楽しいひとときでした。あいにく 15 分ほどの時間しかありませんでしたが、傑出した学者の雰囲気を感じました。チューターの李美大一さん、および姜明采さんには神奈川大学の施設利用方法を教えてもらうとともに、食文化や飲酒文化などを通じて、日本での生活を楽しむ手助けをしてもらいました。彼らとの会話を通じてカナダの大学院生との類似点と相違点を理解することができました。最後になりましたが、成田さんのサポートのおかげで私は参考資料を見つけることができ、神奈川大学のサービスを利用することができました。彼女は非常に辛抱強く私の初歩的な質問にも十分な注意を払ってくれました。彼女の仕事に対する情熱は、未だに印象深く残っています。

私はこの報告を通し、支援してくださった全ての方に心から感謝の意を示したいと思います。

そしてこれから、非文字資料研究センターと UBC の架け橋として、役割を果たしていきたいと思っています。

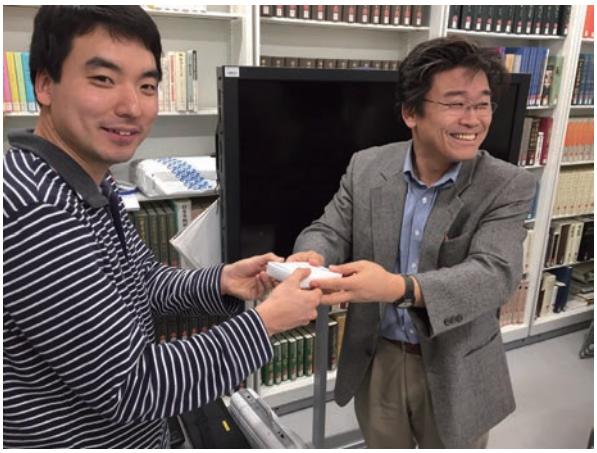

写真 3　孫先生と

非文字資料研究センター 訪問記

任　仁宰
（漢陽大学校）

こんにちは。

私は 2017 年の 1 月 23 日から 2 月 12 日まで、神奈川大学非文字資料研究センターにおいて訪問研究員の資格を得て研究に参加した、韓国の漢陽大学校史学科博士課程のイム・インジェです。

まず、訪問研究員という素晴らしい機会を与えてくださった内田センター長をはじめ、すべての先生方に、感謝の意を表したいと思います。

私は今回、貴大学非文字資料研究センターとの提携機関である、漢陽大学校東アジア文化研究所の推薦を受けて訪問させていただきました。一人で日本に来たのは今回が初めてであり、その上、研究が目的の訪問というのはこれまで経験がなかったため最初は戸惑いもありました。それでも同センターの成田さんと、チューターを務めてくださった松本さん、通訳のカン・ミョンチェさんのおかげで、滞りなく研究過程を終えることができました。

私は今回の日本訪問に際して「日本と韓国のキリスト教学校の設立及び運営」というテーマで研究することを目標にしました。日本に行く前に計画を立て、必要な資料にはどういうものがあるかを調べ、その資料を保存しているところを訪問したいと考えていました。その結果、3 週間にかけて東京と横浜にあるキリスト教系大学の図書館、記念館、資料室を訪問して様々な多くの資料に接することができました。

とりわけ印象深かったのは青山学院大学の資料センターです。予め申し込んでおいた閲覧が許された資料のうち、特に関心のあったものが展示してあったのでそのコピーがあるかどうかを尋ねたところ、係の方が「この資料はここに展示してあるものだけなので、展示中のものを取り出してまいりましょう」と、申し出てくださいました。展示中の原本を取り出すという意外な出来事に驚き、深く感謝したことを覚えています。立教大学の立教学院史資料センターにおいても予想を超えた貴重な資料をいただきました。これらの資料は私の研究に大いに役立ちました。私がこの度訪ねた大学のすべての関係者の方々に、この場をお借りして心より感謝の意を伝えたいと思います。

研究テーマとは直接関係がなかったのですが、個人的に日本の改新教（キリスト教の一派）ゆかりの遺跡を週末の度に探訪できたことはとても貴重な経験でした。青山霊園外人墓地の金玉均墓所、「2・8 独立宣言」が行われた在日本韓国 YMCA の 2・8 独立宣言記念資料室、賀川豊彦記念 松沢資料館などを訪問することができました。特に、松沢資料館の杉浦副館長から、資料館に関する詳しい説明を伺うことができました。賀川豊彦牧師は韓国ではあまり知られていませんが、日本のキリスト教の歴史においては大変重要な人物であることがわかりました。

写真１　金玉均の墓石

写真２　杉浦副館長と松沢資料館にて

最後の発表も忘れられない思い出です。自分なりに準備はしたものの、日本語を使って発表したことがなかったので松本さんに頼らざるを得ませんでした。予想以上に皆様からのアドバイスと励ましを受けたことに感謝しています。

写真３　研究成果発表

写真４　研究成果発表（内田センター長、安田先生とともに）

写真５　発表後の会食

今回の日本訪問では、研究テーマに対する調査及び発表の準備をしながら大変良い経験ができました。日本語に対する恐怖心が消え、多くの方々と接することができました。３週間という短期間ではありましたが、将来もし日本に留学することがあれば、大きな問題を抱えることなく適応できるという自信がつきました。再訪の機会があれば、そのときには今回見落とした資料を探してみたいと思います。

今回の訪問研究員プログラムが、韓国の博士課程の学生にとっても大変有益なものであることを広く知らせたいと思います。これからも訪問交流が盛んに行われ、両国間の意思疎通の場となるよう望んでやみません。

どうもありがとうございました。